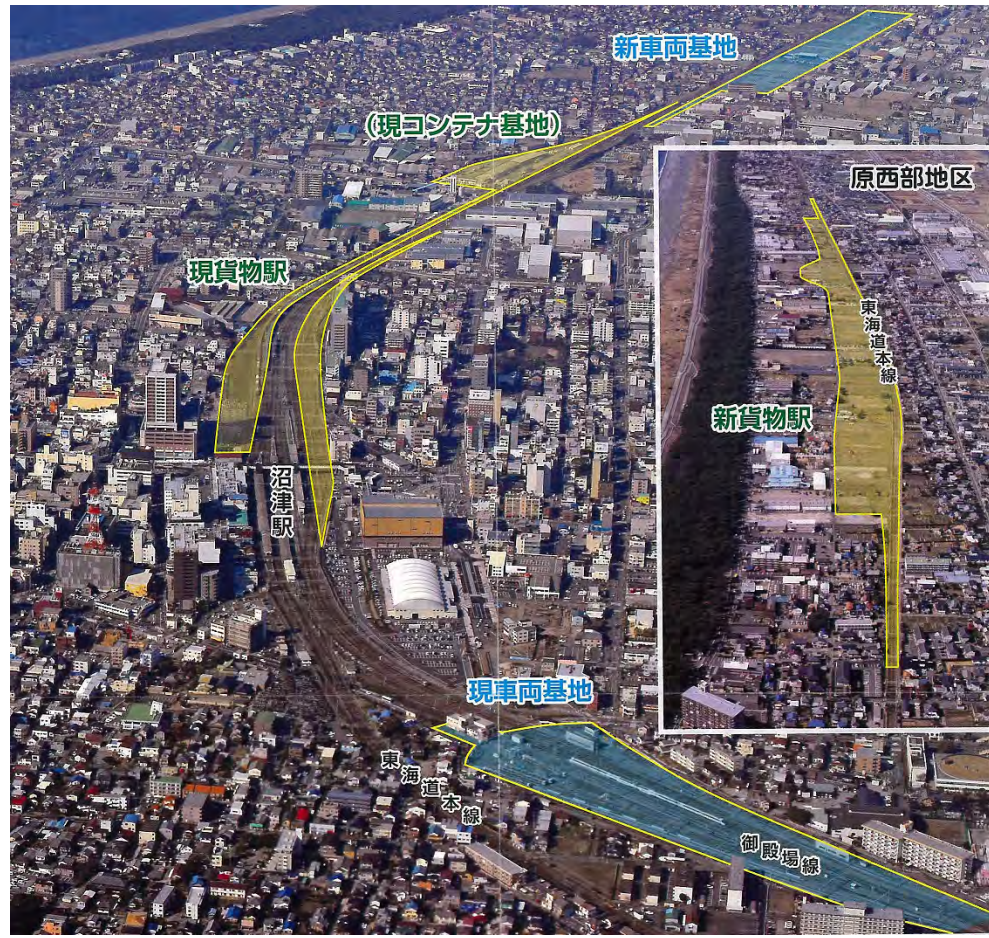


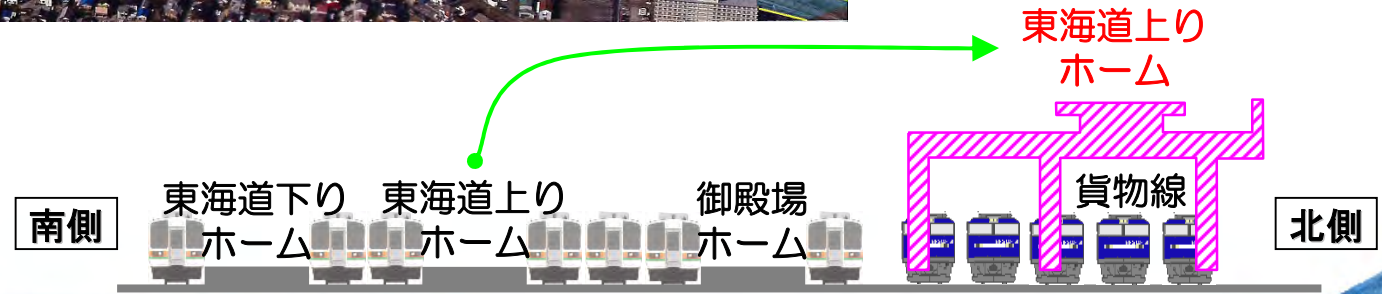
4. 貨物駅移転計画／現貨物駅の状況



4. 貨物駅移転計画／貨物駅移転の必要性



- 現貨物駅は、東海道本線を南北から挟み込んだ形状
- 高架本体工事は、この現貨物駅を活用し、北側から順次施工する計画



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

4. 貨物駅移転計画／貨物駅移転の必要性

【本線の高架化により、現貨物駅との高低差が9mに】

- 現貨物駅の活用は困難

【現貨物駅の敷地は、鉄道高架や区画整理等の事業用地に活用】

- 現貨物駅跡地は、鉄道高架用地や都市計画道路敷地、土地区画整理事業用地として有効に活用し、地域活性化等へ役立てる



貨物駅移転の必要性



- 周辺の土地利用状況や鉄道線形・高架化計画、施工性・工期等を考慮して現位置に決定

4. 貨物駅移転計画／移転先の状況

No.25



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

4. 貨物駅移転計画／用地取得状況

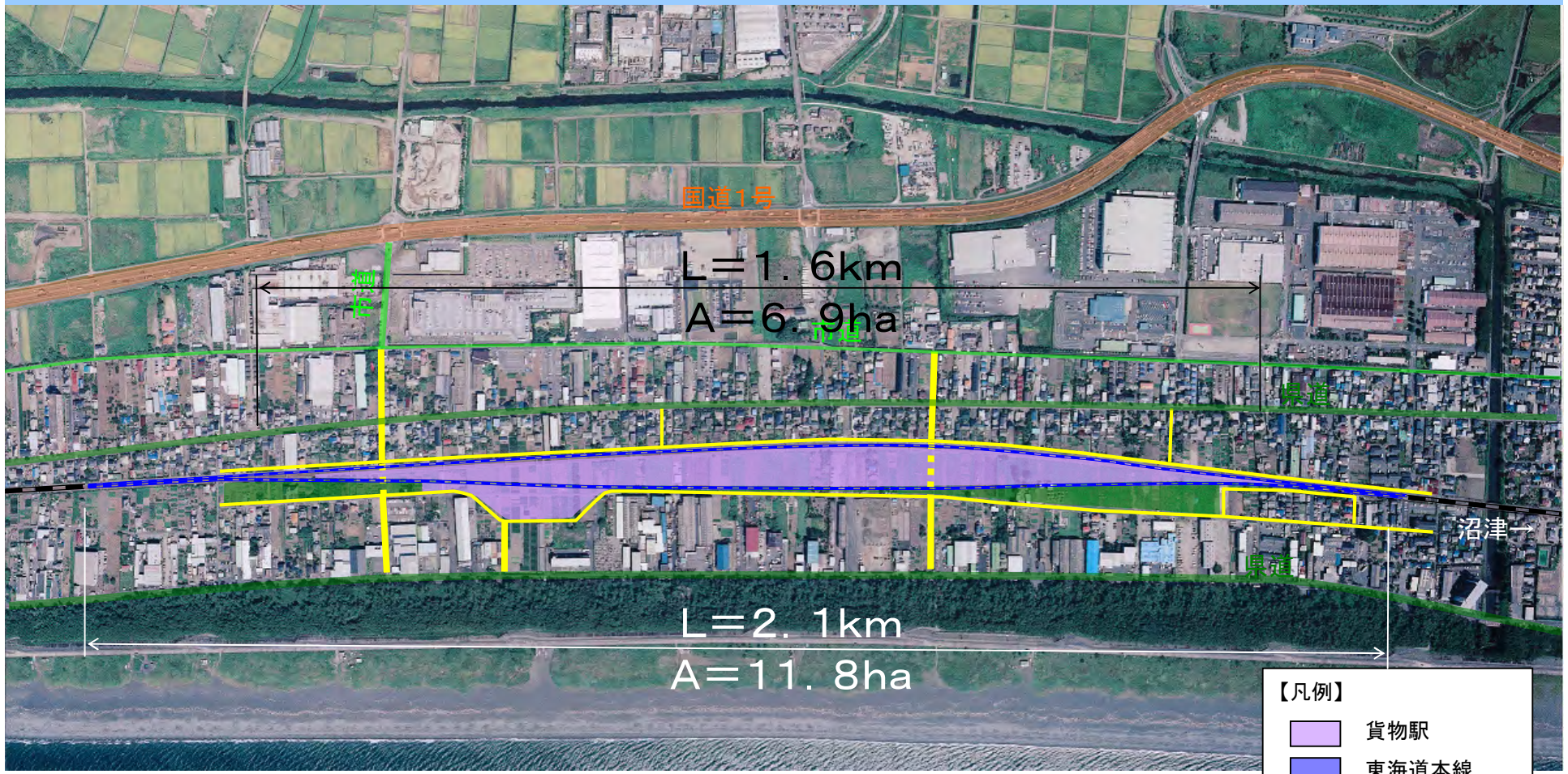
No.26



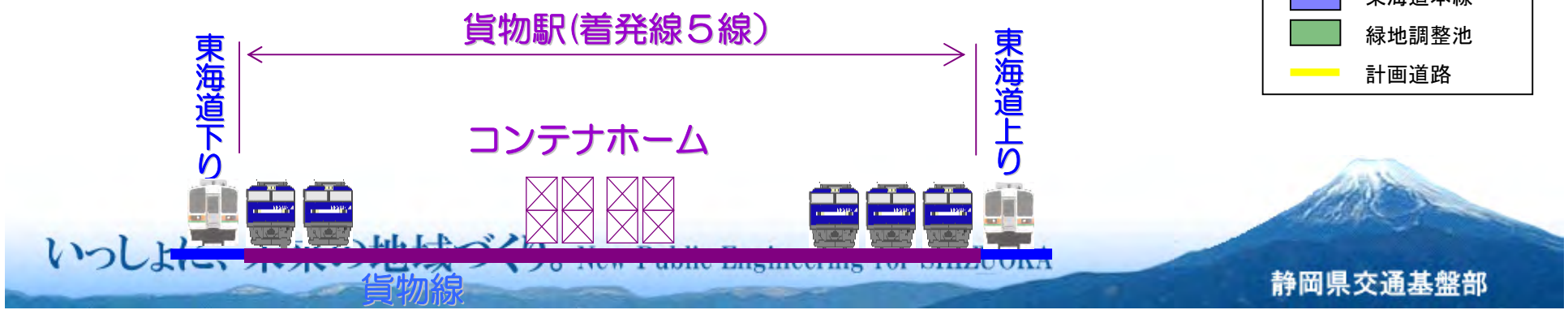
いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

4. 貨物駅移転計画／計画概要



- 【凡例】
- 貨物駅
 - 東海道本線
 - 緑地調整池
 - 計画道路

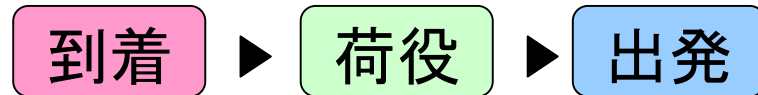


4. 貨物駅移転計画／新旧貨物駅荷役方式

- 新貨物駅には、「着発線荷役方式」という新しい作業方式が採用。貨物駅の設備は大幅に簡素化され、荷役作業の時間も大幅に短縮される。
- 現在の貨物駅の作業方式は、荷物の積み卸しをするのに貨車の切り離しや入れ換え、連結などの作業が伴い、貨物駅の設備に広いスペースと複雑な線路配線が必要とされる。

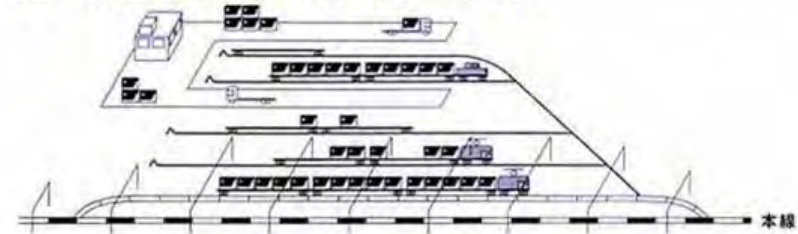
【着発線荷役方式】

◎着発線荷役方式(単純な配線と短時間で済む荷役作業)

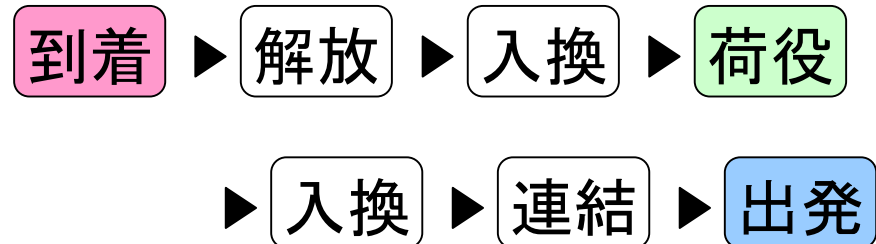


【従来方式】

◎従来の方式(複雑な配線と時間のかかる荷役作業)



出所: 静岡県沼津市沼津駅周辺総合整備事業HP



4. 貨物駅移転計画／新貨物駅における環境対策

- 下表8項目について、環境へ及ぼす影響の事前調査を行い、現在の住環境を守るために必要な対策を講じる。

	環境影響の種類	想定する対策
1	騒音	線路沿いに防音壁の設置
2	振動	線路北側は、将来予測値と概ね同等。 線路南側では、枕木の材質を工夫。
3	光害	照明灯に遮光板を使用
4	鉄粉飛散	将来予測値は現況と概ね同等
5	輻射熱	周辺の緑化、貨物駅ホームの舗装材質の工夫
6	トラックによる大気汚染	将来予測値は現況と概ね同等
7	踏切遮断時間の増加	新貨物駅を横断するアンダー道路を2本新設
8	自動車流入量の増加による交通事故の発生	運送業者等へ安全運転の指導を徹底